



# 刈谷の ★輝く人



刈谷にゆかりのある輝く人を紹介します！



第48代海上保安庁長官  
せぐち よしお  
瀬口 良夫 さん

## プロフィール

今川町出身、62歳。刈谷高校野球部時代には、エースとして夏の県大会準決勝まで勝ち進み、工藤公康投手を擁する名古屋電気高校（現・愛工大名電高校）と対戦。



▲昨年の海の日に行われたプロ野球始球式の様子



日本テレビ  
野球中継  
公式YouTube

## 日本の海の治安を守る誓

「海の平和を守らなければ日本は成り立たない」と話すのは、海上保安庁長官の瀬口さん。海上保安庁は、日本の沿岸水域における犯罪の取締り、海難の防止、安全の確保、環境保全などを任務としています。「日本は島国なので、船での輸入や漁業が盛んで、海難も多い。海の安全や秩序を守ることに海上保安官一同、誇りをもって任務にあたっている」と力強く話します。

## 国を守るということ

海軍出身の父の影響で幼少期から海への憧れがあった瀬口さん。「父から船や飛行機、海の話をお風呂で聞いていた。中学生くらいの時には船に関係する仕事に就きたいと思っていた」と笑顔で話します。高校卒業後は、船に乗る仕事に就くには海上保安庁が一番という思いで海上保安大学校に入学し、海への第一歩を踏み出しました。

海上保安庁に入庁後、最初に赴任した北海道・根室では、北方四島付近の領海警備にあたりました。漁業を行う日本の漁船が、旧ソ連の国境警備隊に拿捕されないように守る役割を担い、「国を守るということの大切さと厳しさ、さらに北海道の厳しい自然環境も相まって印象深い」と当時の思いを話します。その後は鹿児島で尖閣諸島の警備も経験。「尖閣には人はいないが、日本にとっては重要な場所。そこでの警備はとても貴重な経験」と語ります。

長官としては、特に現場力の強化に尽力。「海上保安庁の組織の根源は現場。ベテランの培ってきた技術や知識を若手に伝承する環境づくりを意識してきた」と語気を強めます。

## 海の未来を守る礎を

尖閣諸島をはじめ、日本の安全保障環境が厳しい状況にある中、今までなかった対策も進めています。「ドローンの対応など、新たな体制を整え、強靱で持続可能な組織づくりを進めていく。自分が退任してからも組織づくりは続くので、その道標を残したい」と意気込みます。

質実剛健の精神のもと、毅然と海の秩序を守ってきた瀬口さん。今後も後進の育成に力を注ぎ、日本の海の未来を守り続けます。

## ★輝く人の原動力！

### 部活帰りの思い出

高校の部活後は、刈谷市駅周辺のお店で仲間とおでんや焼きそば、揚げあんまきをよく食べていました。



▲瀬口さんが高校生のころの刈谷市駅前

### あの夏の後悔

高校最後の夏の大会準決勝、終盤に投手としてマウンドに立つことを恐怖心から断ってしまい、結局負けてしまいました。その時の後悔が、仕事の原動力になっています。



▲準決勝終盤の円陣